モノづくりとモノづくり設備でモビリティ社会の未来を創るソリューションプロバイダーに向けて

— Becoming a solutions provider that creates the future of mobility society through manufacturing and equipment development —

経営役員
長谷部　朝彦
A. HASEBE

当社は 2024 年 8 月に第二期中期経営計画を発表しました．ジェイテクトは何の会社なのか？ 外部環境・産業構造が急激に変化する中，付加価値を高め続ける経営に変革するにはどうすればよいのか？ 社内で多くの対話を重ねて策定したのが，中期経営計画の核となる JTEKT Group 2030 Vision 「モノづくりとモノづくり設備でモビリティ社会の未来を創るソリューションプロバイダー」です．この VISON に込めた当社の目指す姿は，お客様との対話・共創を通じて真のニーズと背後の社会課題をつかみ，その解決策を提案し続けることです．そして，ソリューションプロバイダーへの変革に重要なのが，当社が今まで培ってきたモノづくりとモノづくり設備だと思っています．さらに，デジタルものづくりと AI 技術を活用しながら，既存事業の強化とともに，新規事業・新領域へチャレンジして新たなビジネスモデルを築きたいと思っています．

モノづくりとモノづくり設備の歴史

当社の強みは，さまざまな製造工程と内製の工機組織を持っていることです．これは前身である豊田工機株式会社と光洋精工株式会社の歴史と深く関わっています．豊田工機は，株式会社豊田自動織機およびトヨタ自動車株式会社の工機工場を源流としており，外国に負けない優秀な専用工作機械の製造を目指して設立されました．その後，自動車部品の生産開始により，油圧機器・熱処理・砥石（と）・制御機器など，さまざまな製品設計と生産技術を築いてきました．一方，光洋精工は軸受の国産化を目指して生まれ，独自技術を開発してきました．圧延・旋削・熱処理・研磨の製造技術だけでなく，制御も含めた設備設計と内製を可能にしました．その後，安全性・省スペースを追究した設計と保有技術の組み合わせにより，世界初の電動パワーステアリングの開発に成功しました．2006 年に 2 社が合併してジェイテクトとなりましたが，今でもグループ会社を含めて，素形材から加工，組立てまでの工程の造りこみ，設備の内製ができることは，世界でも類を見ない特長であり，強みであると思います．そして，グループ会社を含めた技術のシナジー効果をさらに引き出すことが重要であると考えています．

モノづくり競争力の強化

2023 年度を最終年とする第一期中期経営計画は「体質強化の三年」と位置付け，生産技術本部では内製コスト 2 分の 1 に取り組みました．具体的にはラインの省人化と，特殊専用工程の手の内化・内製化を徹底的に進めました．省人化に関しては，搬送を中心に内製設計による簡易的な自動化を導入してきました．また，外観検査では AI 技術を活用して磁粉探傷検査など，難易度の高い自動化を行い，最小の人員でラインを 24 時間稼働できるようになってきました．特殊専用工程は，モノづくりで他社と差をつけなければならないと思っています．グループ会社も含めたモノづくり設備開発の強みを利用して，転造・熱処理・性能検査など特殊専用設備の

内製化により，投資削減と設備制作リードタイム短縮に取り組んでおります．このような競争力強化によって稼ぐ力と付加価値を上げ，原資と余力を確保したうえで新しい領域へチャレンジしていこうと思っています．

デジタルものづくりへの取り組み

最小限のリソースで効率よく完成度の高いアウトプットを創出するには，従来の経験や勘ではなく，データによるタイムリーな意思決定，付加価値業務の強化，業務プロセスの標準化・効率化の実現が必須となります．このため，スマート工場，設備製作のデジタル化，生産準備のDX（Digital Transformation）の三つのデジタルものづくりに取り組んでおります．スマート工場では，設備から収集した稼働データを分析することにより，生産性向上，在庫削減，トレーサビリティー，刃具摩耗の兆候管理など，さまざまな改善が自律的に進んできています．設備製作のデジタル化では，3D CADデータを基にしたDR（Design Review），制御回路のシミュレーション，部品加工，調達データ，組立手順書など，AR（拡張現実）やVR（仮想現実）技術も活用しながら一貫して3Dデータを活用した設備づくりを進め，リードタイム短縮と完成度向上に取り組んでいます．生産準備DXでは，製品設計3Dデータを活用した設備干渉の確認，ロボット・ラインシミュレーションを活用した工程計画，型製作，精度測定データの作成など，データを有効活用しながら開発・製品設計との業務の同時進行により，生産準備のリードタイム短縮とライン立ち上げ時での確実な企画値達成に取り組んでいます．

モノづくりのその先，ソリューションプロバイダーへ

当社は，お客様の仕様に基づいてユニットを提供する受動型ビジネスから脱却し，社会やエンドユーザーのニーズを起点にお客様との対話を通じて，適切なビジネスモデルにより，ソリューションを提供する体制へと変革を進めています．そのために，具体的な二つの取り組みを行っております．

一つ目は，技術的な強みである「コアコンピタンス」をプラットフォーム化したテクノロジープラットフォーム「テクプラ」の活用です．ジェイテクトおよびグループ会社が保有する技術力を一元的に集約し，事業や組織の枠を超えて最大限に活用することにより，お客様や社会が抱える課題に対して迅速かつ的確なソリューションの提案が可能となります．

二つ目は，ソリューション共創センター「ソリセン」による取り組みです．お客様の課題に真摯に向き合い，コアコンピタンスと社外ステークホルダーの強みを融合させることにより，新たなソリューションを創出し，社会やお客様の真のニーズに応えられる，一気通貫のソリューション型ビジネスの活発化を図ってまいります．

新たな領域へのチャレンジには原資の確保が不可欠です．当社の長いモノづくりの歴史の中で培われた技術力にくわえ，デジタル技術やAI技術を活用し，営業・企画・開発・設計・調達・生産準備・生産・販売・アフターサービスに至るまで，全員参加・全員活躍の体制により，既存製品の付加価値を向上し，収益力の強化を実現してまいります．「モノづくりの，その先へ．ジェイテクトはソリューションプロバイダーへ．」今後とも，皆様の変わらぬご支援を引き続き，よろしくお願いいたします．